# 町民のひろば

## 自慢あれこれ ⑮ 書

### 柳橋敏博さん（長倉）

長倉の柳橋敏博さんのお宅には、「憲政の神様」と称され、立憲改進党の党主として名望高かった明治の政治家尾崎行雄（一八五九～一九五四）直筆の書が、大切に保存されている。

書体は、青山塵外相明月定中心（青山は塵外の相、明月中心を定むる）

とあり、青年時代の尾崎行雄が政治に取り組む姿勢を書きしるしたものといわれる。

祖父が大総村村長をしていた時に支持していた代議士を通じて書いてもらったらしい――と語る柳橋さんは「我が家の家宝ですョ。」と話してくれた。

## 栗山川をきれいに

### 斉藤朱美（横芝小三年）

栗山川は、わたしの家の近くを流れている川で、おとうさんや、おじいさんが子どものころからある川です。

わたしは、栗山ばしの近くに、よくさんぽにいきます。このあいだもいきました。

はしの上から川の遠くをみると、てっきょうがあって、どこまでも川がつづいています。

よいながめです。

でも、すぐ下の川をみると、水がにごっていて、あまりきれいではありません。

水門の方へ歩いていくと、つりをしている人が二、三人いました。とても楽しそうです。

「バッチャン、ガラガラ。」

と、いう音がしたので、びっくりしてふりむくと、川のはんたいがわの方で、あきかんや、ゴミを川にすてている人がありました。

「ああ、そうか、川の水がにごっているのは、きたないものを川にすてる人がいるからだ。」

と、わたしはひとりごとをいいました。

そして、そのわけがよくわかりました。

「夏になると、毎日、この川でおよいだんだよ。」

と、いったおとうさんのことばを思いだしました。

水門をあけて、水がすくなくなると、しじみや、からすがいがたくさんいて、それをとって、みそしるにいれ、ごはんのときには、みんなで食べたそうですから、今の川よりずっときれいであったと思います。

今は、だれも川にはいっている人はいないので、そんな生きものはいるかどうかわかりませんが、もし、いたとしても、水がきたないので、気持ちがわるくて食べられないでしょう。

「川がきたない。川が、きたない。」

と、みんながいっているのに、へいきできたないものをなげいれる人がいるので、たくさんの人がこまっています。

わたしは、そんなことを考えながら、はしの上から川をみていると、あぶらのようなものがギラギラひかっているところや、せんざいのあわみたいなものが流れてくるのがみえました。どこかの人が流したのだろうと思いました。

今は、かた目や、体がまがったおかしな魚がいるということをききました。水がきたないからでしょう。

わたしたちも、栗山川へはいって、おとうさんたちの子どものころのように、しじみやからすがいをとりたいと思います。

大人の人も、わたしたち子どもも、気をつけて栗山川をもっともっときれいにしましょう。

魚も、気持ちよくすいすいおよいでいる栗山川にしたいと思います。

## 横芝俳壇

### 句会新年例会

土屋　栗水

田作（ごまめ）干す陽が風紋に輝いて

石川　奇水

田作りはまこと雑魚寝の姿かな

成田　慎子

風花や風鐸の空深きより

宇井　芝童

風花や泥葱とどく厨口

藤代　ゆう

田作りを炒る火加減に年重ね

津田　若菜

手返しのごまめが光る日和かな

鈴木　南知

山裾の村静まりて小正月

池田　和代

重箱のごまめ黒豆釣りあげし

若梅あやめ

風花の松の青さに触れにけり

向後　雅子

田作りの噛み難き年重ねけり

安井ゆづる

お降りの雫垂らして鎖樋

三枝　句城

風花の触れし眼鏡をはずしけり

次回

日時　三月六日（火）

兼題　「春愁」「芝焼」